

東京大学 文系 Part 1

あい ようすけ
相 洋輔さん (文Ⅱ・海城)

き むら かいと
木村 海大さん (文Ⅰ・麻布)

ば ぼ ひらく
馬場 啓さん (文Ⅲ・麻布)

うち だ みらい
内田 未来さん (文Ⅰ・麻布)

ど ひ まさたか
土肥 雅高さん (文Ⅲ・開成)

みやこし か や こ
宮越 香野子さん (文Ⅲ・桜蔭)

グノの読み方をすれば英文を行ったり来たりせずにスラスラ読めて、読みやすくなります。前から解釈していくという、考えてみたらあたりまえの方法を教わったことはグノに来るまでありませんでした。

宮越 香野子さん (文Ⅲ・桜蔭)

目次

● 東大を志望した動機	P1
● 入塾のきっかけ	P2
● グノーブルの英語	P2
● 英語が伸びた時期	P4
● グノーブルの数学	P5
● グノーブルの国語	P5
● グノーブルの先生	P6
● グノーブルの環境	P6
● 後輩へのアドバイス	P7

※●は、このPDFフルバージョンのみの掲載項目

東大を志望した動機

馬場: 多くの先輩方が東大に進学していたので、中学の頃から漠然と東大を意識してはいました。東大受験を決めたのは高校生になってからです。大学教授の父から「東大には他大学に比べ、圧倒的に研究予算が投下されている」と聞いていたので、そういうメリットは活かしたいとも思いました。

相: 僕は高1の秋に駒場祭に参加して東大の雰囲気懂得て意識し始めました。高2からは、塾や予備校で東大について知る機会が増え、東大を目指す友達も多かったので、明確に東大志望を決めました。

内田: 僕は高2の夏には、「東大、京大、一橋のどこかにしよう」と決めていました。麻布の卒業生は、これら3校への進学が多かったからです。高3の春から夏にかけて、入試問題を見比べて「京大や一橋よりも東大の方が解きやすい」と思ったので、最終的には東大に決めました。

木村: 僕は中学入学当初から「どこの大学に進学するんだろう？」と考えていましたが、学校の成績が悪くなかったこともあって、「東大を目指す実力がある」と周りに言われていました。「それなら東大に行こう」と、東大に入ること自体が1つの目標になっていました。中学受験時は「麻布に入りたい!」という目標があって、麻布に入学したら今度は「最高峰を狙いたい!」という目標が変わった感じです。

土肥: 開成という環境だったので、入学当初から東大を意識はしていましたが、はっきり決めたのは高3の夏頃です。僕は歴史系に進みたいので、史料がたくさんある東大に魅力を感じました。手軽に史料を読む環境は便利ですし、教授にもかなりすごい方々がそろっていると聞いているので、そんな教授のもとで学んでみたいという気持ちもありました。

宮越: 私が高3で東大志望を決めました。高3の4～5月に学校の進路調査がありますが、その時に、高校の先輩もたくさん進学している東大を目指すことにしました。私は進路がはっきり決まっているわけではないので、2年間教養学部で学んでから学部を決められる進振りが決め手でした。

土肥: 僕もまだ進路が明確でないので、進振りがあるのはうれしいです。進振りの倍率は厳しいと聞



相 洋輔さん (文Ⅱ・海城)

いますが、2年間とりあえずやりたいことをやって、その後にどうするかを決めます。入学後にいろいろな選択肢があるのはありがたいです。

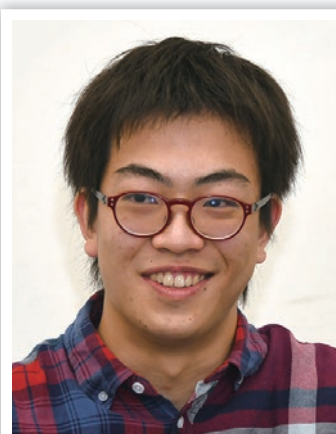
相：僕も高校では進路を決められませんでした。興味を持てることを探している最中なので、それを教養学部で見つけられれば、と思っています。

宮越：父は東大卒ですが、最初の2年はいろいろな科目をとれて面白かったと言います。私も、その2年間で自分の考えが変わってくるかもしれません。

馬場：皆さんの言う通り、進振りは魅力です。教養学部の2年間で面白い本や授業と出会える可能性がありますから。むしろ、僕は進振りのない他の大学に疑問を抱きました。最初から専門教育ばかりの大学は、視野の狭い人間を創り出す機関になってしまうおそれがあるのではないかと。今の時代を考えても東大みたいに進路を自由に選べるフレキシブルさが他の大学にももっと広がったらいのにと思います。

内田：僕はおそらく法学部に進学すると思います。ただ、その先のことはあまりはつきりしていません。

木村：進みたい学部はまだ決まっていますが、もし法学部に進学するとしても、その中で将来について考え続けることになると思います。今は文Ⅰという入口に立っただけです。「このまま勉強して官僚に上り詰める」といった生き方ではなく、この入口で一度踏みとどまってみようと思います。何を勉強したいのかも何に興味があるのかもよくわかっていませんから、「人一倍見聞を広げよう」と覚悟は決めています。



内田 未来さん (文Ⅰ・麻布)

入塾のきっかけ

相：中1の冬期講習から入塾しました。その時期に兄が入塾したので、僕もついでという感じでした。母は、兄のことを考えながら他塾と比較してグノーブルを選んだそうです。

土肥：僕も中学の早い段階で入塾しました。僕の場合も親の勧めが大きかったのですが、「受験に特化した塾よりは幅広く学べる塾の方がいい」という漠然とした思いはありました。塾の宿題に追いつかれるよりも学校のことをきちんとしたくて、それでグノを選びました。

内田：僕は中2の最後です。ハンドボール部の友達3、4人がグノに通っていて楽しそうだったので、つられて入塾しました。他塾との比較はしていません。

宮越：私も、部活で仲の良い2人がグノに通っていて、「グノはいいよ」と言っていたので、他塾との比較もせずに高1の春期講習から入塾しました。グノのポスターには部活の先輩も写っていて、グノを身近に感じていたのもあります。「そろそろ塾に通った方がいいかな？」と考えていた時期で、英語と数学の両方を受講しました。

馬場：僕は中学の頃から、定期テスト前に英語はまじめに勉強していました。でも、高1になってから、大学受験を見据えて塾を探し始めました。友人にテキストを見せてもらったり評判を聞いたりしたところ、「グノは楽しい」という噂をたくさん聞きました。そこで、高1の冬にグノの講習を受けて、「これだ!」と思い入塾を決めました。

木村：僕は、友達に紹介されて高2の春に入塾を決めました。塾に通っている人にテキストを見せてもらったりして、入塾前はありとあらゆる塾を比較検討しました。その結果、英語力を一番鍛えてくれるのはグノだと思いました。僕は英語が好きだったので、大学受験以上の英語力を鍛えたかったです。



木村 海大さん (文Ⅰ・麻布)

グノーブルの英語

土肥：中1の頃からグノでは声に出して英語に親しむのが普通でした。動詞の活用も声に出して覚えたので、絶対に間違えないくらいですぐに頭に入ってしまう、この頃から「音読はいい」と思っていました。

文章を読むようになってくると今度は、グノで扱う英文は面白い文章が多いことに気づきました。高3になるとグノの授業で毎回楽しい英文に出会えましたし、いつのまにか自分でも、面白い英文をネットで探せるようになりました。

宮越：グノでは、最新の科学研究の話にも英語で触れられて、興味深く読んでいました。例えば、犬の性質を調べた科学研究の英文のこともよく覚えています。実験によると、犬は飼い主に親切でない人からは、餌を差し出されても食べない傾向が強いんだそうです。犬を飼っている私はうれしくなって読んでいました。ありきたりの内容だったり、興味の持てない英文では「勉強のための勉強」になってしまっていますが、グノではいつも、勉強していることを忘れてしまうほど興味の持てる英文と出会え

ました。

馬場：本当にグノでは楽しく英語を学べました。面白い英文を読みながら、英語力の向上という結果も出るのですから最高です。他塾に通う周りの友人を見てみると、受験英語に特化した勉強をしていて、とてもつまらなそうでした。息苦しく勉強する塾じゃなくて本当に良かったと思っていました。

相：僕は、小学校の英語は楽しかったけれど、中学に入ってから英語はつまらないと思っていました。でも、グノに通うようになってから、「やっぱり英語は面白い」と感じられるようになりました。文法事項や、受験勉強では切り捨てられる単語なども、理屈や語源までさかのぼって説明していただいたので、興味も湧きましたし、何より英語への親しみを深められたんです。グノの教え方が僕に合っていて、毎週の授業が楽しみでした。

木村：以前、むやみに競争心を煽ってくる塾に通っていたことがあって、先生は怖いし、塾に行くのも全然楽しくありませんでした。そんなトラウマがあって、「できるだけ塾に行きたくない」と思っていたくらいです。でも、グノに入ってから、授業が楽しくて、一度も「塾に行くのが嫌だ」と思ったことはありません。

内田：グノでは暗記を押し付けられたことは一度もありません。英単語も語源から説明してくれますから、自然に覚えてしまいますし、1つの単語を覚えると他の単語や知識も関連づけて覚えられるので、知識が広がりやすかったです。

予備校などでは構文を詰め込むと聞いたことがあります。様々なパターンの構文を覚え込んで、実際に英文を読んでいく時には、その知識を適用しながら英文の構造を解析していくらしいのです。「関係詞の限定用法だから後ろから訳し上げて……」と日本語で考えながら、英語の順番を入れ替えて解釈していくので、間違いが起こりやすいし、読むスピードも落ちます。

一方、グノではネイティブの人が読むように前から語順通りに意味をとっていくやり方を指導してもらえたので、間違いが少なく読むスピードも格段に速くなりました。

宮越：グノの読み方をすれば英文を行ったり来たりせずにスラスラ読めて、読みやすくなります。グノに入るまでは、英文を解釈する時に、英単語を訳して日本語の順番に並べ替えて読んでいました。前から解釈していくという、考えてみたらあたりまえの方法を教わったことはグノに来るまでありませんでした。

相：グノといえば音読です。僕が真剣に音読に取り組み始めたのは高2の時でした。それまでは、日本語を媒介して英語を読解していましたが、それだとスピードは落ちるし、英語本来のニュアンスも薄れます。でも、音読を始めてからは、英語を英語で読めるようになって、そうすると速読も可能になります。英語力が高まり、海外のニュースも理解できるようになってうれしかったです。

馬場：グノが勧める音読には科学的根拠があります。僕は自分でも言語学の本を読んでみたことがあって、普段グノの先生のおっしゃっていることと同じようなことが書かれており、安心できました。受験の世界では盲信的な勉強法もありますが、グノはそうではありません。実際、音読をすると、読むスピードが上がります。ただ、音読といっても、授業の解説をしっかり受けていることが前提です。単語や文法事項はもちろん、英文の内容を深く理解していないと効果的な音読にはなりません。

木村：日本語の文章を読む場合でも、文字を目で追っているのに頭では理解できていなくて、ただ読み進めているだけということがあります。僕の最初の頃の音読がちょうどそんな感じで、ただ漫然と読んでいただけでした。

先生が授業で示された音読の指針を聞いた後、「人に英文の内容を英語のまま伝えるつもりになって音読するのが大切なんだ」と改めて実感して、その通りにやってみようとしたら、それが意外に難しくして……(笑)。でもそれを続けているうちに効果が出てきて、1年経てみたら英文を読む感覚が大きく変わりました。

内田：グノでは毎週、音読するのにちょうどいい長さの、興味の持てる英文が用意されます。それにはGSL*もついていて、授業で解説されたことを考えながら音読していました。GSLに合わせて音読をする時には行ったり来たりしている暇はありませんから、英語の語順で頭を働かせ続けていました。お陰で、前から意味をとっていく力が自然と身につきました。

* GSL (Gnoble Sound Laboratory)：中1から高3までの6学年すべてにオリジナルの英語音声教材を用意しています。

宮越：黙読だと何となく読めているつもりで読み流すところも、声に出して音読していると「あれ？ここはわかっていない！」となるのがしばしばありました。英文の切れ目を考え直してみると、「そういうことか！」とわかることがあって、音読していると英語の感覚が磨かれていくように感じていました。

土肥：僕の場合、グノには長く通っていたので、英語を前から読むということはあたりまえのものとして培われていました。お陰で受験学年になっても、音読は思いついた時にちょこちょこやる程度ですみました。



土肥 雅高さん (文Ⅲ・開成)



馬場 啓さん (文Ⅲ・麻布)

内田：過去問を重視しない点にもグノの特徴があります。普通の塾は、過去問の研究にこだわって、志望大学合格を最大の目標として対策を練っていくと思います。一方、グノは、本当の英語力を鍛えて真っ向勝負という方針です。僕自身も、グノの方針に従って過去問を1年分しかやらずに東大を受けました。今年は問題形式が大きく変わったと言われていますが、僕はそんなことを気にせず落ち着いて解くことができました。それで TLP*に選ばれたので、グノの方針は間違っていなかったと思います。

* TLP (Trilingual Program) : 「グローバルリーダー育成プログラム」の一環。東大の英語入試で上位1割程度に入った学生に認められています。

英語が伸びた時期

木村：グノにはいつでも、純粋に英語に集中する環境がありました。直前期になっても、先生方から受験勉強を煽られることもなかったのも、本番でも特に気負うこともなく英語に向き合えて、その結果、僕も TLP に選ばれました。

でも、入塾時は、上位のクラスではありませんでした。グノには本当に英語の優秀な人がいて、最初は少し気後れしてしまっていました。グノの指導に従って、語源を大切に単語を覚え、音読を復習の中心にしているうちに、「このやり方が自分にも合っている」と実感できて、成績も上がりました。

高3になってからはかなり調子が良かったです。高3の夏休みは、他教科の勉強の休憩に英語をやっていたくらいです。受験が近づくにつれて他教科が忙しくなると、英語にあまり時間をかけられなくなりましたが、ただ、習慣として音読は続けていて、センター試験で忙しくなるまで毎日1時間くらいは音読していました。それだけ音読に時間をかけると、達成感があるし、自信にもつながりました。高い水準で英語力を維持できたと思っています。

宮越：私も、周りのグノ生が本当に英語ができることに衝撃を受けていました。特に高3の時の要約では全然点数がとれなくて、11月から12月にやっと良い点を連続でとれるようになりました。「学習は階段を上るようなものだ」と言いますが、「自分も階段を上れた!」とうれしくなりました。

要約は、表面的に英語が読めるだけでできるような単純なものではありません。それだけに、やり方がわかってきたことは自信につながりました。私の場合も実力アップにつながったのは音読だと思います。

馬場：僕は2回伸びました。1回目は、高2の初めです。2回目は受験期でした。音読を重ねているうちに読むスピードがさらに速くなって、しかも英作文もスラスラ書けるようになりました。英語を前から組み立てていく感覚が理解できるようになると、本当に伸びると思います。単語や構文を組み立てていく感覚と、論理を前から組み立てて展開していく感覚です。日本語でも複雑なことを言ったり書こうとすると難しいものですが、英語である程度そういうことができるようになるためのトレーニングが、グノの音読です。

相：僕も馬場君と同じで、2段階で伸びました。1回目は、中3から高1の期間です。授業の最後にGSLの短いセンテンスが流されてそれをディクテーションするお帰問題がありましたが、その問題を必死でやっていたのが伸びた理由です。ディクテーションで身についたことは英作文にも流用できました。英文の組み立てができるようになってきて、「自分は英語ができる」と思っていました。

ところが高2になって、周りの皆も上達してきたし、扱う英文が長くて複雑なものになってきたら、今度は「自分は英語ができない」と思い始めてスランプの時期を迎えました。そんな時、「何も見なくても言えるくらい、何も聞かなくても喋れるくらいに、英文を読み込みましょう」と先生にアドバイスされました。レベルが上がっている英文を自分の中に取り込んでしまうことが2回目の伸びにつながったと思います。英語のリズムが自分のものになってきて、意識して覚えようとしなくても「こんなことが書いてあったな」と記憶が蘇るようになりました。

内田：僕も2回伸びを実感しました。最初は高1の時です。それまでは何となく感覚的に解いていた問題を、どうしてこうなるのかを自分で説明できるようになったんです。当時は音読よりもリスニング中心で、GSLをずっと聞いていました。短い文章をたくさん聞いて、構文を頭に入れていった時期です。

次は高3の夏を過ぎた頃です。この時期は、授業の復習をする時に積極的に声に出して音読をしていました。初見の英文を読んでいる時にも日本語が頭の中に浮かばなくなって、みるみる読むスピードが上がりました。

土肥：僕の場合は、高2の頃、普通に英語のサイトを見て楽しめるようになっていたのが伸びを実感した時期だと思います。きっかけは、ネット上の面白ニュースを見ていて、その中に海外サイトを翻



宮越 香野子さん (文Ⅲ・桜蔭)

訳したものがあって、その翻訳元を探ってみました。英語ニュースも読めることに気がつきまし
たし、もとの英語ニュースと日本語訳を読み比べてニュアンスの違いを感じたりするのも結構ハ
マっていました。

グノーブルの数学

宮越：以前は、数学は先天的な才能がものをいう教科だと思っていました。小学生の時の算数も、「こ
うだからこうやってやるんだよ」と言われても、私にはいつも「何で？」と疑問が湧くばかりでした。

でも、グノのお陰で、先天的な才能がなくても、努力する方法があるとわかりました。グノの数学
の授業では、膨大な日本語の板書があり、最初は何も考えずに手を動かし続けていました。とにかく
板書の量がすごいし、慣れていない言い回しも多くて、授業が終わった後に見直してもよくわからな
くて、当時はただ必死に書き写していました。

ですから、最初は結構辛かったです(笑)。でも、やがてその板書が、数学を俯瞰して、数学的な
行動原理を自覚化する貴重なツールになりました。先天的な才能を持っている人たちが何気なくやっ
ていることを、私たちも行えるようにするための魔法の杖みたいなものなのです。

それに、グノの数学の先生は、私たちに合った問題をいろいろ用意してくださったり、生徒一人ひ
とりのセルフチェックシートを見てくださったり、私たちのために大変なことをやってくださいま
した。本当に感謝しています。

馬場：僕も、膨大な板書が始まった最初の授業には衝撃を受けました。しかも、その頃のテスト演習
では全然正解できないし、「今まで数学で何をやってきたんだろう？」と虚しくさえなりました。

でも今思い返せば、ただ楽しく数学に向き合う時期から抜けて、より自覚的に道具を使いこなして
高度な問題にも対処できるようにする時期だったのだと思います。毎週内容の濃い上質な授業と問題
が用意されていて、その問題と格闘する日々が続きました。大変だと思いつつも続けているうちに、
数学で使う道具を使いこなせる満足感を味わえるようになったんです。振り返って見ると、とても充
実した日々でした。

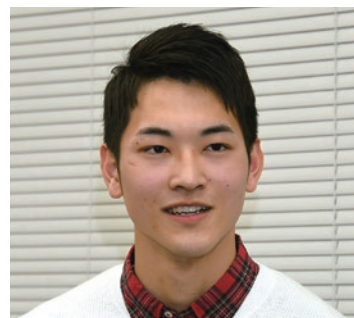
相：僕は、算数は好きでしたが、中学から数学になって、思うようにできなくて自信をなくしていま
した。そんな僕が高2の春、理解不能の膨大な板書と、全然解けないテスト演習に出会ったわけで
から大変でした(笑)。

セルフチェックシートの存在で救われました。自分のことを自分で振り返って書くのがセルフ
チェックシートですが、先生が一人ひとりのシートに目を通してくださってコメントも残してくださ
います。○を書いて出したものはちゃんと褒めてもらえます。それがうれしくて、「全部○で出してや
る！」という意地が生まれましたし、解けた問題が自信にもつながりました。問題のレベルが自分の
1ランク2ランク上だったので、解けた時の喜びは忘れられませんでした。お陰で段々と数学が好き
になっていくという好循環が生まれました。クラス全体のレベルも高く、優秀な生徒たちと切磋琢磨
できたのも、僕にとっては魅力的でした。

馬場：僕たちの成長を先生は必ず評価してくださいます。きちんと認めてくださるというのは一貫し
ていて、とても素晴らしいところでした。

宮越：セルフチェックシートには○●△で出来具合を書くのですが、●を付けることができた問題で
も、偶然解けたのではダメで、必然の正解が求められました。自分がやったことを振り返って記入す
るセルフチェックシートはそのために役立ちました。

馬場：グノのセルフチェックシートは大量に書かなければなりません。自分は何ができなかったのか
を自己分析して、これからどうすべきかを自分で書いて、先生がそれを見て的確にアドバイスをし
てくださいます。授業では、皆ができていない問題を解説し、別解も示してくださったので、とても勉
強になりました。数学は受験科目のひとつにすぎませんでしたが、できるようになってくると楽しみ
に変わっていきました。



相 洋輔さん (文Ⅱ・海城)



内田 未来さん (文Ⅰ・麻布)

グノーブルの国語

相：国語は小学校時代から苦手でした。国語は一般的に「どうやって勉強したらいいのかわからな
い」と言われることが多く、僕自身も本当にわからないままでした。出題される文章は難解で、論理
もつかめないうし、実生活とかけ離れているテーマで理解しづらいものばかりでした。

でも、高3で東大国語を受講して、どんどん国語の授業が好きになりました。担当の先生は身近な
具体例をもとに楽しく理解できる教え方をしてくださいました。一見難解な事柄も、僕たちが言語化
して理解できていなかっただけで、けっして縁遠い話ではないことが授業を通してよくわかりました。

センター試験が終わってから二次試験直前までが国語の力を一番伸ばせた時期でした。複雑な論理もつかめるようになりましたし、答案として何を書いたらいいのかも明確になりました。先生は採点基準をはっきり示してくださったので、「自分の解答に何が抜けていたのか？それが抜けてしまったのはなぜか？」を考えることもできました。添削も手厚くしていただきました。

宮越：東大国語の授業は、毎回楽しみでした。東大の問題だからといって変に難しく教えようとするわけではなく、「答えはすべて文章中にある」ということを教えてくださいました。実際、先生が提示する模範解答も、文章中の言葉を使っていることが多くて、納得できるものでした。

内田：古文の授業も、東大国語も受講しました。とても楽しく受講していましたが、特に印象的だったのは、先生が高いところから僕たちに難解な問いを投げかけてくることは、絶対にないということです。たとえ本文に難解な表現があっても、それを身近な具体例に言いかえてくださったり、論理を読み解くために対義語を探してみようというように具体的なアプローチの仕方を提示してくださいました。過去問の解説などで答案を示してくださる時にも、「どうやってその答えにたどり着くのか？」「答えの根拠をどう見つけるのか？」をいつも論理的に教えてくださいました。僕たちが自分で解く時にはどうすべきかの示唆に富んでいて、本当に楽しく参加できました。

グノーブルの先生

土肥：先生方はあちこちにアンテナを張って良質な英文を見つけてくださるので、グノで用意される英文プリントはいつも読むのが楽しみでした。解説の時にも英文の背景にある話や英文の深い意図も話してくださるので興味が尽きませんでした。

最後に受けた東大模試では、グノで4月に読んだ英文と同じ話題のものでした。他の参考書や問題集にはまだ採用されていない英文だからこそ、こういうことがあるわけですね。そんなこともあって、グノの先生方には感謝の気持ちも敬意の気持ちもいつも持っていました。

馬場：グノの英語は、何年も改訂されないカビの生えたようなテキストでなく、先生方が最新のニュースからも英文を選んでくださるので、とてもありがたかったです。

数学の場合も、問題作りやテストゼミの採点など、先生方が僕たちのことを思ってくくださるのが身に染みて感じられました。

内田：英国のEU離脱の一週間後に、そのニュースに関連する英文がプリントになって扱われていたのは特に印象に残っています。

それから、グノの先生方は1回目の授業から生徒の顔と名前を覚えてくださいます。ですから、いつでもグノの授業には、生徒と先生の距離が近い、楽しい雰囲気がありました。

木村：グノの先生はいつも明るく元気に授業をされる一方で、一人ひとりのことをよく見てくださっています。要約で満点をとって僕が調子に乗っていた時も、勉強の仕方について相談に行った時も、核心をついたコメントをいただきました。気持ちを引き締められたり、大きな励ましを受けたりしていました。

宮越：グノの先生方は、先生だからといって上から目線ではなく、生徒と同じ目線で接してくださいました。それどころか生徒に敬意をはらって接してくださっていたので、言葉遣いにもジェントルマンな雰囲気がにじみ出ていました。先生方の言葉の裏には生徒の力を信じてくださる気持ちがこもっていたと思います。ある先生が「僕は魔法使いじゃない。皆さんが変わるんだよ」とおっしゃっていて、私たちは期待されているんだと実感しました。

相：講習しか授業を受けなかった先生と東大受験前にお会いした時、先生は僕のことをちゃんと覚えていてくださいました。グノの先生方は全員、生徒と関わろうとしてくださいます。本当にすごい先生ばかりです。

グノーブルの環境

宮越：受付に行くときすぐに受付の方が駆けつけてくださって、気持ち良く応対してくださいました。混雑時でも丁寧な応対は変わることがありませんでした。警備員の方も、授業をどこの教室で行っているのかを記載した一覧を持っていて、いろいろサポートしてくださいます。塾全体として温かい雰囲気がありました。

相：僕のミスで直前講習の申込期限が過ぎてしまい、受講できなくなりそうなことがありました。その時にも、受付の方が熱心に対応してくださいました。他塾と比べると、グノの受付は快適な雰囲気があって、「グノは違うな」と思うことが度々ありました。教室や自習室もきれいで、集中できる環境が整っていました。



木村 海大さん（文Ⅰ・麻布）



土肥 雅高さん（文Ⅲ・開成）

内田：振替では何度も受付の方にお世話になりました。授業は少人数が前提となっているのですが、それでも僕たちの用事に合わせて柔軟に振替に応じていただけました。僕たちが授業に集中できる環境を常に保つのは大変だと思います。

馬場：僕も、2週間に1回くらい振替をしていたので、受付にはだいぶお世話になりました。入り口に立っている警備員の方も必ず挨拶をしてくださって、顔まで覚えてくださいました。グノの前を別の用事で通過する時も、「今日は用事がないの？」と声をかけてくださったんです。暑くても寒くても僕たちを見守っていてくださるのがありがたかったです。

木村：入塾直後に自宅のパソコンの調子が悪くて、GSL をダウンロードできずにいた時期がありました。新しくパソコンを買い替えたタイミングで USB を受付に持っていったら、学期中すべての音声を入れてくださいました。至れり尽くせりの受付には感謝しかありません。

土肥：僕も振替には救われました。中学生の頃は、早い時間の授業を受講することにしておいて、その日に用事が入ったら振り替えていました。講習も締切のぎりぎりになって申し込むことが大半でしたが、それでも受付の方が受理してくれました。グノは、生徒が希望の教室で希望の授業を受けられるようにと、いつも取り計らってくれる塾でした。



馬場 啓さん (文Ⅲ・麻布)

後輩へのアドバイス

土肥：英語は音読を強くお勧めします。僕自身は伸び悩んでいた時期も経験していて、その原因は音読をしていなかったからだと思っています。後輩の皆さんにはスマートに英語を勉強してほしいので、ぜひ音読を習慣化してほしいと思います。

宮越：私も音読をお勧めします。他の教科に関しても、信頼している先生に「やっておこう」と言われたことは、遠回りをしないためにも、自分なりに工夫するためにも、まずはやってみることが大切です。先生を信じて、自分の力も信じて、受験勉強をがんばってください。

馬場：英語の音読や数学のセルフチェックシートなど、グノの先生方を信じてやっていけば東大も簡単に入れます。僕は、英語だけでなく古典でも音読をやっていて、それでどちらも伸びました。それから、数学で教わったフローチャートを地歴でやったら地歴も伸びました。グノの先生のおっしゃることはいろいろな教科に応用できます。グノーブルで学んだことを活かしながら、受験勉強を楽しんでほしいと思います。

内田：グノの音声教材をガンガン使って、他のことには浮気せず、グノの授業の復習だけに集中するのがいいと思います。授業中で「わからない」「初めて出てきた」ということはこまめにメモをとって、何度も見直すことをお勧めします。僕は、授業で解説された教材を流し読みも含めて何周もして読み込んでいました。それで僕は TLP に選ばれたので、グノを信じてついていけば大丈夫です。

木村：高3になると英語の読解は、毎回要約の演習から始まります。採点もされるので点数は気になりますが、点数よりも大事なものは、どんな点数であっても「真剣に授業を吸収し尽くしてやるぞ!」という心意気です。点数がいい時にも浮かれていないで課題を見つけるべきだし、点数が悪い時には特に真剣に解説を聞くことが大切です。漫然と塾に来て授業を受けるだけではいけません。グノを徹底的に利用しましょう。

相：英語の話が続いたので、僕は数学で締めたいと思います。僕は、グノの数学で自己分析の大切さを学びました。自分が解けなかった問題を解けないまま残して解法だけを知っても、その経験を次の問題には活かせません。「なぜ間違ったのか?」を追求し、正解にたどり着くための思考過程を意識することが大切です。この自己分析の視点は、数学だけでなく他教科にも応用できます。

他にも、英語で論理展開を意識することの重要性を知って、それが国語にもつながったりと、1教科だけでなくあらゆる教科がリンクしています。だからこそ、1教科だけに絞って物事を見て、視野を狭めない方がいいと思います。

それから、僕は高3の11月に「自分はできない」というスランプに陥りました。この時、相談した先生からいただけたのが、「自己分析すれば、スランプだと思っていたことが成長の糧になる」というアドバイスでした。この言葉を信じて勉強を続けていたら、センター試験が終わってから伸びを実感できました。受験生は最後の最後まで伸びます。だから、「自分はダメだ」と自暴自棄にならず、諦めずに自分がやっていることを貫いてください。



宮越 香野子さん (文Ⅲ・桜蔭)